

平成 27 年度 卒業論文/修士論文題目・要旨

< 卒業論文 >

「大阪産（もん）」からみる都市近郊農産物の空間的広がり

藤田 梨花

大阪府によって大阪府内産の農産物という認証を行う『大阪(もん)』の認証制度。この認証を受けた『大阪ぶどう』『泉州水ナス』『田辺だいこん』の三つを対象に、実際にはどの程度販売先についての広がりを見せているのかを明らかにすることを目的に調査。結果、大阪府外へと販売先を広げるためにはその生産量と品質保持が重要であることがわかった。

獣肉利活用は獣害対策に貢献するのか—三重県みえジビエを事例として—

喜多 美月

シカによる農林業への被害対策としての捕獲が増加に伴い、獣肉利活用も進んでいる。本稿では、三重県の取組みを事例として、獣肉利活用が獣害対策にどのように影響するのかを明らかにし、獣害対策になる獣肉利活用の方法を考察する。獣肉利活用は捕獲数を増加させるが、それには上限があることがわかった。獣肉利活用を獣害対策につなげるには、生息状況から捕獲場所を選んだうえで、獣肉利活用を行うのが望ましいと考えられる。

町並み保存地区における外国人観光客受け入れ—長野県南木曾町妻籠宿を事例として—

織田 菜月

現在、日本各地で町並み保存の取り組みが行われている。長野県南木曾町にある妻籠宿は全国に先駆けて町並み保存を始め、日本人だけでなく外国人も多く訪れる観光地となった。本稿の目的は、妻籠宿における外国人観光客受け入れの取り組みとその課題を明らかにし、今後の展望を考察することである。課題を解決していくことで、外国人観光客が繰り返し訪れるようになり、それが結果的には妻籠宿の維持につながるだろう。

中心市街地活性化におけるコミュニティビジネスの役割と意義—和歌山県和歌山市を事例として—

尾崎 瑞穂

本稿の目的は、地域密着型の「コミュニティビジネス」が、和歌山市の中心市街地の活性化においてどのような役割と意義を持つのかを明らかにすることである。研究の結果、コミュニティビジネスは地域密着故に、地元の人々の繋がりを生み出す役割を果たし、またその課題は、収益基盤となる自主事業を確立して継続した運営をすることであると分かった。

映画製作がもたらす地域への効果—奈良県大和郡山市を事例に—

塩谷 香恵

近年各地でフィルムコミッションが設立されるなど「地域と映画」の関係に注目が集まっている。本稿では、2011年に地域を舞台とした映画が製作された奈良県大和郡山市を例に、映画製作が地域に与える経済的効果および社会的効果について考察することを目的としている。映画製作が地域にもたらす効果は金銭的なものだけではなく、地域組織の連携の強化や新たな取り組みの実践につながるほか、住民の地域アイデンティティの醸成にもつながるなど社会的効果をもたらすものである。

以上5篇

< 修士論文 >

日本に居住する中国人若者の生活空間利用の変容
—大阪を事例として

蘇 舟

近年、各方面で国際化や国際交流が進められている中で、国際社会における日本の役割が問われつつある。日本政府は1983年、留学生の受け入れ数を21世紀初頭10万人に増やす方針を打ち出している。大阪は日本国内で在留中国人が東京都の次に2位である。大阪の在留中国人の数は現在も増え続けていく。中国本土の経済・発展によって、多くが豊かな中流階級以上の一人っ子として育てられ、現在の留学生の大半は以前の留学生と異なり、より経済的に豊かな生活を日本で過ごしており、生活の多様化が予想される。本稿では大阪の中国人若者を事例に生活空間利用をみていきたいと思う。在日中国人の存在様態を総体的に捉えるためには、居住地の分布や生活の展開される範囲とその中で形成される社会関係の様相といった点を重視する必要がある。

土地区画整理事業と地権者の対応—尼崎市旧大庄
村地域を事例として—

黒田 将広

本研究では、大庄地区を事例として戦前期に行われた土地区画整理事業が、戦後の市街地形成にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにするため、区画整理と地権者の関連を考察したところ、以下の3点が分かった。第一に、戦前期に行われた複数の区画整理事業に組合員として関わっていた地権者は、戦後高度経済成長期以降に行われた区画整理をも推進させたということである。第二に、農地解放などの影響によって農業を続けることになった地権者は、農地を宅地化させつつも維持しようとしたため、戦後に行われた区画整理は、宅地の造成だけではなく農地利用の増進という目的も含んでいたことである。第三に、対象地域は低層住宅が多く中高層住宅が少ないという特徴を持つが、このような市街地が形成された経緯には、地権者が区画整理地区内に農地を残存させたことが関係していると分かった。

以上2篇

